

南ア塩見岳～大荒予報! ? 2度目の正直～

【報告者】A屋、A本、I藤

【日時】2018年12月29-31日

【天候】晴

【参加者】A屋 (CL)、A本、I藤

《コースタイム》

1日目 8:00 冬季ゲート～9:43 鳥倉登山口～14:00 三伏峠 (幕営)

2日目 6:40 三伏峠～本谷山～9:45 塩見小屋～11:21 塩見岳 (西峰・東峰) 11:39～13:06 塩見小屋～本谷山～16:00 三伏峠 (幕営)

3日目 8:21 三伏峠～10:18 鳥倉登山口～11:11 冬季ゲート

《 報 告 》

1日目(12/29)行程

鳥倉林道冬季ゲートから登山口までは9 km の舗装道路が続くため、硬い冬靴ではしんどいだろうとアプローチシューズで歩き、登山口にデポする作戦とした。同じようなことを考える人はいるようで、キャリアで荷を引きデポする登山者もいるようだ。登山口から三伏峠までは、登り一辺倒の登山道であるが、積雪があり部分的にアイスバーン化しているのでアイゼンやチェーンスパイクの装着をおすすめする。4時間程度の長い登りを終えると三伏峠小屋が見える。冬季避難小屋は10名程度が泊まれる広さがあり板張りにゴザという造りである。窓がなく薄暗く、人の出入りのたびにドアの開閉があり寒いだろうということで、小屋前にテント泊とした。登りのボッカが終わった途端に寒さが全身を包み、慌てて防寒着を羽織ってテント設営を行う。

2日目(12/30)行程

長丁場の山頂ピストンのため早立ちがセオリーだが、ヤマテンでは朝方ほど風が強く登山に適さないとされていたため、昼頃の登頂のワンチャンスにかけて遅めに出発した。

三伏峠から塩見小屋までは基本的に樹林帯の中であるため風は弱いですが、時々、頬が痛くなるほどの冷たい横風を浴びる。クリスマスシーズンから年末年始にかけて入山者がいるためしっかりとしたトレースがありワカンは不要。

塩見小屋前で休憩し、山頂アタックに向けた装備を



長い林道歩きは南アルプスらしさ?



三伏峠小屋前で幕営



塩見小屋からいよいよ山頂へ

整える。森林限界を越えた稜線では相当な強風を覚悟していたが、意外に風は弱く晴天であり。先行者がつけたトレースがあるためルートファインディングは不要であるが、途中で夏道を逸れて近道トラバースもあるようだった。ロープを出すほどではないが、滑落は許されない斜度の箇所は多く、想像以上に神経を使う登りだった。

いくつかの急斜面をクリアすると山頂稜線に飛び

出す。若干風は強くなるが、行動できない程ではない（体感 15m/s）程度。南アルプスの山々や富士山が一望できる。西峰から東峰（最高峰）までは 5 分程度の距離。山頂で一服し、登頂をよこび合う。

最大の山頂からの注意箇所は下山である。柔らかい雪からクラストして硬い雪面まで、様々なパターンの斜面に確実にアイゼンを効かせて一步一步降りていく。塩見小屋まで降りたってようやく安全地帯まで戻って来られたと緊張が緩む。

三伏峠までは長い道のりを登ったり降りたり、戻ることになる。30 日の登頂者はおおよそ 15 人か、山頂を前に引き換えしている人は見かけなかった。

3 日目(12/31)行程

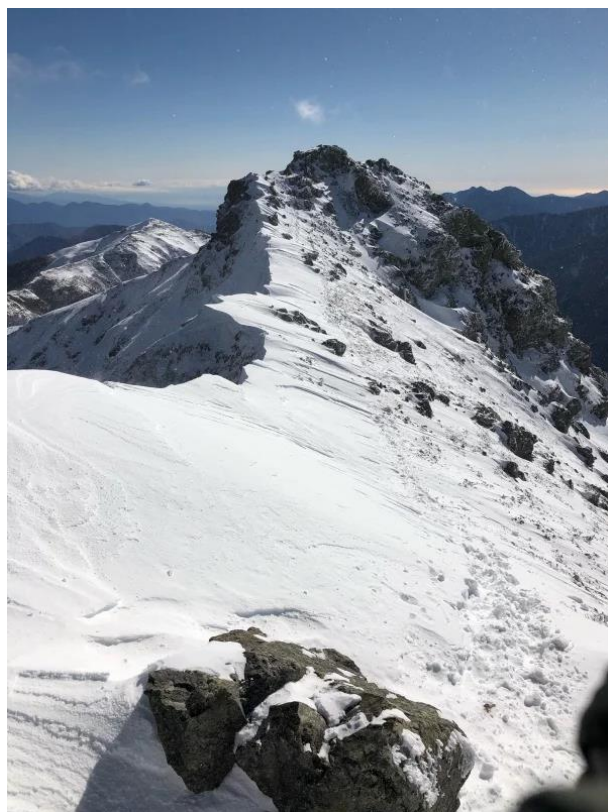
ゆっくり朝の準備を整え、三伏峠から下山する。鳥倉林道は行きよりも長く感じる苦行のような 9km である。

下山後は飯田市の温泉旅館にて入浴し、同じく飯田市の「やまいろゲストハウス」で一泊する。築 200 年の

古民家を改装してオープンしたばかりのこの宿は、オシャレさと温かみが同居する空間があり、お酒やおでんの提供もしているホスピタリティあふれるお迎えをして頂く。スーパーで調達した食材と宿のビールや「飯田おでん」で乾杯し、他の宿泊客とも交流しながら紅白歌合戦を BGM に夜更けまで歓談した。近年はゲストハウスが盛んなようで、1 泊 3000 円程度で宿泊や地元の味を楽しめるので遠征登山の拠点として、今後も活用していきたい。



登頂後の記念撮影



塩見岳西峰から東峰を望む



やまいろゲストハウスは登山拠点に最適、飯田おでん（右）

《A屋感想》

雪山遠征で登頂できない4連敗中だったので、悪天予報(-17度 29m/s)にも関わらず、予報だけで中止はせずに塩見小屋まで行って状況判断しようと、敗退も辞さない構えで入山した。塩見小屋では意外に風が弱く「これは行くしか無いっしょ」ということで、塩見岳山頂を目指す。

山頂直下はトラバース、雪壁、岩場登りの連続。ロープが必要とまで言えない難しさであるが、落ちると致命的な急斜面が続く緊張する。山頂からは360mのパノラマが広がり、達成感に溢れる。富士山がどっしりと祝福しているよう。

下山は登りより緊張するが、アイゼンの歯を意識して落ち着いて降りる。塩見小屋まで降りると無事に登頂を成し遂げた実感が増してくる。

今回の遠征では基本方針としては天気予報が悪くても塩見小屋まではいこうと決めて臨んだのがよかった。予報通りなら多分登れなかっただろうが現場で得られる経験は今後の登山に役立つはず。山の天気は行ってみないとわからない。逆のパターン(好天予報にもかかわらず現地では厳しい気象条件)もあるのかと考えると、状況判断や経験の積み重ねの大切さを改めて感じる。

今回の反省点は軽量化。手をつけなかった食料、行動食、着替えが沢山出てしまった。最適化が要検討である。

《I藤感想》

1日目 ザックの重量は、18kg程になっていたと思います。クタクタになり、幕営地に到着しました。テントを設営の際に、両手指関節がピリピリと痛み始め、手袋を交換し、痛みはしばらく治まりませんでした。さらに、次第にあくびも出始め、リーダーの指示通りに動けず、細かな手作業も出来ず、億劫になり、結局、ほぼ全てを設営して頂くことになりました。疲労困憊なのか低体温の初期症状なのかは、分かりませんが、テントの中で温かい飲み物や食べ物を取ることで、徐々に回復しました。

2日目 凍傷にならないよう、登頂を目指します。核心部の山頂直下は、トレースを頼りに、トラバースをしました。

急斜面は一步間違えれば、奈落の底です。伯耆大山の弥山尾根、劔岳の熊ノ岩～本峰の雪渓、八ヶ岳赤岳山頂直下など、これまでの歩いてきた記憶が走馬灯のように駆け巡りました。タガーポジションやフロントポイントキックを意識し、学んできた技術が、一步一步、慎重に試されたように思います。

無事に登頂出来ましたが、正直、嬉しいという実感はなく、油断せずに無事に下山することだけを祈りました。

《A本感想》

えー、この度は天候に、そしてメンバーに恵まれ無事登頂することが出来ました。何だかゴルフの挨拶みたいですね。I藤さんにはたくさん荷物を持ってもらって申し訳なかったです。流石！歩荷クイーンです。ありがとうございます。A屋さんの綿密な計画には舌を巻きました。流石！2年目の執念です。自身7年振りの冬山で精神的、体力的にとっても不安でしたがお二人に引っ張って頂き、18年でサイコーの満足感を得ることが出来ました。ありがとうございます。(風邪うつしてすいません。)

冬山は技術、体力、協調性、根性、お笑いセンス、様々なスキルが試される、中華料理で言えば満漢全席のような山行だと思いました。とても楽しいです！

19年の年末も雪山盛り上げていくバ～イ♪。